

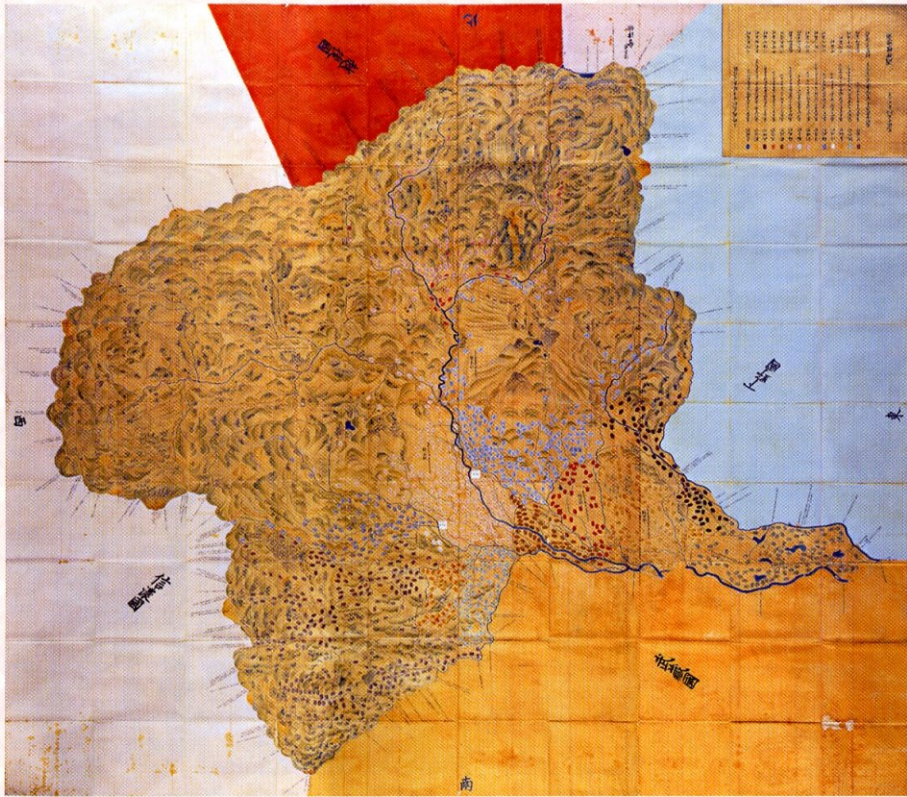
群馬県立文書館

# 文書館だより

TEL 027 (221) 2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp/>

第47号 平成22年3月



「元禄上野国絵図」(縦約520cm×横約555cm)

元禄上野国絵図が  
群馬県指定  
重要文化財に

平成二十一年三月二十四日に当館所蔵元禄上野国絵図が群馬県指定重要文化財に登録されました。

国絵図の県指定には関東近県では長野県や新潟県、当館所蔵「群馬県行政文書」中の「天保切絵図」(行政文書として一括指定)があります(平成二十年度末現在)。

本絵図と同じ元禄国絵図としては愛知県や宮城県などでの指定があります。

絵図右上の罫紙(添書)部分





## 一 国絵図とは

江戸幕府は、大がかりなものとして慶長・正保、元禄、天保の四度、諸国の主要大名に命じて「国」との地図である「国絵図」を献上させました。慶長国絵図は西日本を対象でしたが、残り三度の調製事業では上野国絵図が作られています。絵図の調製を担当する大名は幕府から指名され、上野国では前橋藩や高崎藩が中心となりました。各絵図の担当者は次のようです。

	担当者
正保	前橋藩酒井家 高崎藩安藤家 館林藩松平家 幕府代官（諸星政長）
元禄	前橋藩酒井家
天保	高崎藩松平家 安中藩板倉家

現在、幕府に献上された上野国絵図の原本として確認されているのは天保国絵図（国立公文書館所蔵）一鋪のみであり、正保図については模写図とされるものが数点確認されているだけです。元禄図に関しては、本絵図が幕府の仕様書に基づいて調製された国絵図の系譜を引く唯一のものとなっています。

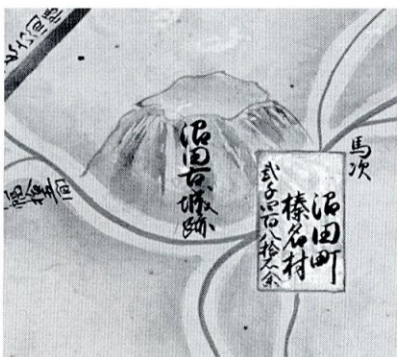
## 二 記載内容

本絵図の罫紙（添書）には「元禄十五年壬午十二月 酒井雅楽頭」とあり、前橋藩五代藩主酒井雅楽頭忠挙が元禄十五年（二七〇二）十二月に献上したことがわかります（前頁左下）。縮尺は約二万六〇〇分の一で、一里（約4km）を六寸（約18cm）で表しています。現在発行されている国土地理院の二万五〇〇〇分の一の地形図よりもひと回り大きい縮尺になります。

記載されている内容は多岐にわたり、国郡境・山川・道筋・馬次・城・関所・温泉・渡し場・御果鷹山・神社仏閣などが色彩豊かに描かれ、上野国内の一四郡一四六四ヶ村の村名と石高が郡毎に色分けして書かれています。



左上の写真は現在県庁がある前橋城周辺の様子です。白地の四角の枠内には「前橋城 酒井雅楽頭」とあります。城の東側には八幡宮の鳥居や社殿、周りの樹木が見えます。村は楕円形の枠で示され、村名の脇には村高が記されています。道を挟むように並んだ黒丸は、道の距離を一里毎に印した一里山です。



右の写真は、沼田城の様子です。天和元年（一六八一）に真田信利が改易となり、城も取り潰されたために「沼田古城跡」となっています。沼田城の再建は、本絵図が完成した翌年、元禄十六年正月の本多正永の入封を機に始まりますが、この沼田城の描写は他の国絵図の調製年代等を検討する際の重要なポイントになっています。なお、沼田以外の古城跡としては「新田古城」「箕輪古城」「大胡古城」「岩櫃古城」「平井古城」が確認できます。

本絵図の伝来については不明な点が多く、今後のさらなる研究が必要ですが、江戸時代中期における上野国全体の自然や地理的景観が鳥瞰できるとともに、新田村や枝郷の記載などからは、江戸時代の村の様子や成立過程を知ることができます。また、関所や渡し場、河川の渡り方などの記載からは交通史的なアプローチも可能です。郷土の歴史を知ることのできる貴重な史料と言えます。

## 三 閲覧利用

本絵図は二三分割の写真版やマイクロフィルム、レプリカなどの複製物によってご覧いただくことができます。関連史料としては、天保国絵図調製の際に用いられた天保上野国切絵図（請求番号・議2）や本年度新たに収蔵された倉林秀昭家文書の「元禄上野国絵図」をはじめ、前橋藩酒井家関連の酒井家史料（F八一六）・酒井家文書（F八二二）・姫路市熊谷家文書（F八八〇四）などのマイクロ収集文書があります。また、村側の史料としては旧鬼石町三波川村の飯塚馨家文書（P八二一四）に元禄絵図調製関連の古文書が確認されています。

その他、当館研究紀要『双文』には国絵図関連の論文も掲載されていますので、ご利用の際には併せてご覧ください。



# ふるさと再発見講座

本講座は、地域の歴史資料を引き出し、新たな視点で地域文化を紐解くことを目的とした事業で、三年目の本年度は、各回定員50名として、以下のとおり、五回実施しました。《講師敬称略》

⑥5月13日（水） 於みなかみ町

【旧雲越家】林 好一



雲越家住宅資料館

藤原地区の両妻兜造旧雲越家は、国の重要有形民俗文化財に指定されています。貞享の検地帳によれば、真田信利改易後、幕府の命で前橋藩が検地を実施した結果、藤原村の石高は、おおよそ、一千五百石から三百四十石に修正されました。

⑦7月15日（水） 於片品村

【会津街道】大久保勝実／大竹将彦



三烈士之碑

写真は、慶応四年八月十八日の須賀川の戦いを記す碑で、篆額は徳川宗家第十六代家達の揮毫によるものです。碑文中の米沢藩志士雲井龍雄は、藤沢周平『雲奔る』の主人公で、会津街道を三平峠から檜枝岐村へ抜ける途次、満山風雨波生花、と尾瀬沼を詠じました。

⑧9月13日（日） 於孀恋村

【大笹関所と獅子舞】田村喜七郎



大笹関所遺構

仁礼街道の大笹関所は、寛文二年、沼田藩主真田信利により鹿籠川沿に設置され、元和元年、信利改易後は幕府直轄となり、明治元年、廃止されました。大笹神社（旧諏訪社）の獅子舞は、明治初年、信州真田町の獅子舞を招来したものです。

⑨11月11日（水） 於下仁田町

【下仁田戦争】大塚政義



高崎藩士死之碑

写真は元治元年十一月十六日の下仁田戦争で亡くなった高崎藩士を記念する碑で、書は幕末の三舟の一人勝海舟です。筑波山で挙兵した天狗党は、太田、本庄、藤岡、吉井、富岡を経て、下仁田で高崎藩士と激戦になり、双方の戦死者は40名を超えました。

町内には、旧水戸藩士が建立した「義烈千秋の碑」や天狗党本陣の桜井家などがあります。高崎藩本陣の里見家の土蔵の白壁には、天狗党が撃ちかけた弾丸の痕が今も残っています。

⑩1月13日（水） 於太田市

【金山城跡】宮田 毅



金山城大手虎口

『松陰私語』に、岩松家純による金山城築城（文明元年）や太田道灌来城の記述がありますが、築城は鎌倉公方と関東管領が対立した享徳の乱の後になります。家純没後、金山城主は横瀬氏（由良氏）になりますが、天正期に廃城となります。江戸期、金山のアカマツは幕府直轄の御林として、將軍家に松茸が献上されましたが、明治以後、昭和三十年代まで、皇室に献上されました。

『太田金山絵図』（元禄十四年）に曲輪跡などが描かれていますが、山頂の実城からは、関東平野を一望できます。

◎ 来年度は、吉祥寺（大友氏）、東善寺（小栗上野介）、大信寺（駿河大納言）などを計画しています。

# 満員御礼!

## 新講座

### 「ぐんま史料研究講座」

#### 「よみがえる史料の世界I」

当館では、入門・長期の各古文書講座を毎年開催していますが、今年度から始まったのが「ぐんま史料研究講座」です。これは惜しまれつつ昨年度で休刊となった『ぐんま史料研究』の趣旨を引き継いだ講座で、『群馬県史』編纂事業の成果を活かしつつ新たな史料の紹介もしていく講座です。

最大の特色は、これまでのような古文書の読みを中心におこなうのではなく、記録・日記・文書群などの史料群全体の生まれた背景やその意味などを考察していくところにあります。古文書一点一点の面白さとはまた一味違った、活字になった史料群ならではの豊かな世界に、参加者が踏み出していく手がかりとなることをめざし企画しました。

今年度は、古代・中世・近世について次の三回の講座をおこないました。

第一回 12月13日(日)

前沢和之氏「古代の石文からみた上

野国―上野三碑と山上多重塔―

第二回 1月30日(土)

峰岸純夫氏「戦国期の新田荘の記録

―「松陰私語」―

第三回 2月27日(土)

阿久津宗二氏「前橋藩松平家記録」

の史料性について

群馬県の歴史に興味があり、原則として三回とも受講できる方を対象に募集したところ、定員70名に対し100名を超える申し込みがありました。県外からの申し込みもあるほどの盛況でした。各回とも専門的でありながらもわかりやすい講師の説明に、文書館三階研修室いっぱいの受講生も熱心に聞き入っていました。終了後のアンケートでも、来年度も受講したいという声が多く寄せられました。

平成二十二年度は、二十一年度の好評を受けて五回に拡大し、中世一回・近世二回・近現代二回に関する内容を12月〜3月に予定しています。ご期待ください。



第三回の模様

新たに収蔵した

## 行政文書

管理受任等 平成二〇年度に管理委任及び引継により県の各機関から受け入れた文書は、一、五八八冊でした。(詳細は表1のとおり)

課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数
学事法制課	51	環境保全課	15	砂防課	171
市町村課	9	廃棄物政策課	39	知事部局合計	648
選挙管理委員会	32	森林保全課	14	(知)10年保存課	(13)
消防保安課	42	農政課	6	調査広報課	664
土地・水対策室	13	技術支援課	6	議会図書室合計	664
障害政策課	19	農業経済課	3	生涯学習課	2
薬務課	29	蚕糸園芸課	3	文化課	261
同10年保存	(13)	畜産課	12	教育委員会合計	263
衛生食品課	28	労働政策課	59		
環境政策課	1	道路企画管理課	96	総計	1,588

表1 平成二〇年度管理受任文書の課室別冊数



県庁での選別収集作業の様子

部局名	冊数
総務部	88
企画部	180
生活文化部	35
健康福祉部	161
環境森林部	214
農政部	250
産業経済部	83
県土整備部	506
議事事務局	34
教委事務局	124
地労委事務局	1
地管委	79
合計	1,755

表2 平成二〇年度収集文書部局別冊数

収集 平成二〇年度の文書整理において県の各機関が廃棄した文書資料中から、文書館が歴史資料と認めて収集したものは、一、七五五冊でした。(詳細は表2のとおり)



新たに収蔵された

## 古文書

【寄贈・寄託古文書】平成二十一年四月以降

◎前橋市嶺町・池田三滋家文書

明治期を中心とした池田家伝来の史料群四二七点です。近代嶺村及び芳賀村大字嶺村関係文書を多く含みます。(寄贈)

◎洪川市伊香保町・深井正昭家文書

高崎藩大河内家に仕えた深井家に伝存した高崎藩関係史料及び近代以降の深井家関係文書群八二八点です。(寄託)

◎藤岡市中大塚・小林小五郎家文書

近世中大塚村村方史料及び近代戸長役場関係文書など約八〇〇点です。和本類も多く含みます。(追加寄託)

◎邑楽郡大泉町・横田明家文書

藤岡市三波川上妹ヶ谷(旧鬼石町)に所在した横田家に伝存した近世馬医や年貢に関する史料など十点です。(寄託)

◎吾妻郡高山村・平形作太郎家文書

近世三国街道中山宿関係史料及び近代郵便史料など約千五〇〇点です。(寄託)

◎吾妻郡東吾妻町・富澤久幸家文書

旧吾妻町原町に所在した富澤家に伝来した近世から近代にかけての史料約五〇〇点です。(寄託)

◎千々和実氏収集文書

近世上州各地のほか越後国魚沼郡の地方文書と明治期の辞令・書簡など六一一点

です。(追加寄託)

◎本井晴信氏収集文書

県内各地の近世文書が中心です。勢多郡岩松村水帳ほか質地証文関係を多く含み、点数は一八二点です。(寄贈)

◎伊勢崎市今泉町・倉林秀昭家文書

元禄上野国絵図ほか明治期の書状など十一點です。(寄託)

◎前橋市野中町・石井一家文書

昭和初期の選挙関係史料五點です。(寄贈)

◎前橋市小神明町・宮内隆男家文書

幕末期の御用触留など近世名主文書を中心とした十九点です。(寄贈)

【マイクロ収集文書】

◎明治期「郷土誌」

群馬大学総合情報メディアセンター図書館所蔵

「群馬県女子師範学校収集郷土資料」

蕪川村郷土誌・郷土史吾妻郡太田村・芝根村郷土誌・原市町郷土誌・群馬県佐波郡剛志村郷土誌・北甘楽郡小野村郷土誌に関する資料です。

新たに閲覧できる

## 古文書

【寄贈・寄託古文書】平成二十一年四月以降

◎中之条町上沢渡・関茂二郎家文書

江戸時代の上沢渡村名主などを務めて

いた関家の史料です。江戸時代後半を中心とした村政・年貢・社寺に関わる文書や、関家の私的文書を含んでいます。

三九〇点(P〇一〇四)

◎佐波郡境町東(現伊勢崎市境東)・福島英一家文書

江戸時代の境村名主を務めていた福島家に関する史料です。年貢関係の文書、世良田東照宮や例幣使街道の伝馬に関する文書を含んでいます。

二〇一三點(P〇一〇一)

◎佐波郡赤堀町今井(現伊勢崎市赤堀今井町)・赤堀恒雄家文書(追加分)

今回は江戸時代から明治時代にかけての史料を公開しました。名主と地頭所用人との年貢に関わる通信書簡や、請取・相場書などの覚類を含んでいます。

九四三點(P八九〇二)

◎前橋市元総社町・旧前橋市元総社地区文書

およそ一五〇〇〇点のうち、江戸時代から明治初期にかけての元総社村に関する文書(御用留・触・郷寄竹札・送状など)を今回公開しました。

二〇六一点(P八四二七)

◎利根郡昭和村森下・真下一久家文書(追加分)

江戸時代の森下村名主を務めた真下家の史料です。人別送り証文などの江戸時代の名主文書や、書状・各種の覚など真

下家の私的文書を含んでいます。

三三七六點(P八一一一)

◎多野郡中里村平原(多野郡神流町)・黒沢通一家文書

明治から昭和期にかけての同家の賞状・任命状・地券を中心に、尾附村名寄帳などの史料も含んでいます。

四二點(P〇九六〇三)

◎前橋市勝沢町・宮内次郎氏収集文書

前橋市田村あい子家文書の一部や、桐生市上広沢地区(丹羽文左衛門家)の文書などを含んでいます。

八八點(P〇〇八〇二)

◎前橋市神明町・宮内禎一家文書

明治期以降の教科書や鉄道路線図、軍事郵便使用絵がきなどの宮内家の私的文書です。

一六點(P〇〇八〇二)

◎前橋市天川大島町・関口尚男家文書

江戸時代から明治期にかけての天川大島村に関する史料(株札・戸長役場関連)が中心です。

一三三點(P〇〇八二二)

◎下仁田町本宿・神戸全貴家文書(追加分)

神戸家文書の公開範囲のうちで、虫損・破損などによって閲覧できなかったものに装備・補修を施し、コピーも含め閲覧できるようにしました。

一三五五點(P八二二三)

## 特別展

### 目で見る文書館資料展Ⅱ

「写真が語るぐんまの記憶」

開催報告

当館では、県の公文書、県内各地の古文書等を歴史資料として収集・整理・保存管理・公開しています。難解な印象のある文書館資料ですが、写真やフィルムも多数収蔵しており、これらの活用を促進することをとおして、資料保存の大切さや「ぐんまの歴史記録保管庫」としての当館への親しみを感じていただきたいと考えています。

今回県庁で開催しました特別展では、昨年の絵図、絵ピラ、大名行列図等に続き、収蔵資料の中から、明治・大正・昭和期の写真資料、映像資料を集めました。10月30日から11月4日までの6日間の開催で、879名の方にご覧いただきました。



懐かしの『群馬ニュース』放映風景



東京オリンピック聖火リレー赤谷湖(昭和32年)【議88B5456】



共進会場(明治43年)【郷土資料5164】

次に、展示した写真資料をいくつか紹介します。

### 現在の富岡製糸場の様子



写真や映像はそれぞれ目的を持って撮影・制作されたものですが、当時の県や地域、建物や人々の生活などを見ることのできる貴重な記録資料としての価値が



片倉工業富岡製糸場(昭和20年代)【議88B5003】



展示を観覧される福田元首相

あります。これらは時として撮影・制作意図とは全く別に、過去から現在、そして未来へ続く時の流れを私たちに語り、そこに関わる人々のあり方などを問いかけます。また、一枚の写真が自分の忘れかけていた過去の記憶を呼び起こし、心の中にその頃の情景を映し出してくれることもあります。

会場にお越しいただいた方からは、「文書館でこんなに写真類も保管されていることを初めて知りました。」「地元の昔の様子は興味深かったです。」「懐かしい写真が多い。」「うちにも古い写真があるので、文書館に持っていきたい。」「他館では、デジタルアーカイブズということで、ホームページ上で見られるようになっているところもあるが、文書館ではできないか。」などの感想・意見が寄せられました。

なお、11月3日(火・祝)には、県庁に立ち寄られた福田康夫元首相がこの特別展をご覧になりました。



平成二十一年度文書館収蔵資料展1

村日記に見る名主の一年

〜吾妻地方の村役人のしごと〜開催報告

本展示では、昨年度刊行の『収蔵文書目録27』『吾妻地区諸家文書(2)』の作成成果を活かしながら、吾妻地方の村々を舞台にして、江戸時代の名主が公務の中で記した村日記をベースに、名主の仕事や役割、村の生活の様子などについて紹介しました。

具体的には、吾妻郡岩井村の名主伊能平治右衛門が安永六年(一七七七)に記した名主日記を中心に取り上げ、その記載内容から様々な場面で活躍する村役人の一年間の仕事の様子を紹介しました。

また、吾妻地方は県内でも交代名主制が盛んに行われた地域の一つとして知られており、名主をはじめ、組頭や百姓代の引継目録といった県内でも珍しい史料が確認されています。本展示でもそれらの史料を取り上げながら、江戸時代の村における文書管理のあり方について紹介するコーナーも設けました。

7月4日(土)から9月27日(日)までの72日間の開催中には、620名の方に観覧いただきました。また、9月3日から始めたホームページ上での展示にも現在600名近くの方にアクセスをいただいています。

平成二十一年度収蔵資料展2

―明治期公文書に

見る建物の記録―

開催報告

当館では、昨年度、『群馬県行政文書件名目録第20集』―明治期会計・戸籍・通信・運輸・建築編―を刊行しました。

近年、全国的に近代文化遺産の保護の必要性が認められるようになってきており、県内にも国・県指定重要文化財、国登録有形文化財となっている建造物が数多くあります。そこで本展示では、目録作成の成果を活かして、当館収蔵建築関係の公文書とおして明治期建築物に関する資料や図面を紹介しました。

10月10日〜12月25日の期間中、543名(パンフレット425名、ホームページ118名)の方にご覧いただきました。引き続き、当館ホームページ上で公開していますので、ご覧ください。



旧七日市藩玄関【議会88B1563】

ホームページ上で好評実施中  
『群馬ふるさと再発見クイズ』

古文書や行政文書を読み解きながら、郷土の歴史への親炙を目的として、月一回実施し、成績優秀者に『群馬県史』を贈呈していますが、第十四回の問題の一部は、以下のとおりです。

◎ 年号を寛永九年として、以下の設問に答えてください。



高崎市 大信寺文書

《訳文》

一 筆令啓候仍於貴寺  
万部被 仰付候由御  
苦勞共候内々我等も

可參候由存候處二

崇源院様御玉屋申付候

儀達 上聞於当地

御佛事可執行候由

御意二付而無其儀就は

三枝伊豆守差遣候委細

口上二申合候恐々謹言

駿河大納言

九月十一日 忠長(花押)

増上寺

床下

《問題》

一 「被 仰付」や「達 上聞」のように、一字、空白にすることを、何と言いますか。また、これと類似の形式には、どのようなものがありますか。

二 崇源院とは誰のことで、祥月命日は何時ですか。

三 御玉屋は、何処にありますか。

四 万部の読経は、何の為になされたものですか。

五 当地とは、何処のことですか。

六 上聞や御意は、誰への敬意ですか。

七 「内々我等も可參候由」の内々は、どのような状況を踏まえたものですか。

八 「駿河大納言附屬諸士姓名」(国立公

文書館内閣文庫所蔵)に、「百六十石  
武川者柳沢右衛門安忠」及び「百五十  
石大番曾雌五左衛門定次」とありま  
すが、両者の血を引く元禄期の大名は、  
誰ですか。

九 前記名簿に、「百五十石大番内山七  
兵衛永明」とありますが、『寛政重修  
諸家譜』によれば、この人を実父とす  
る著名な和算家は、誰ですか。

十 安藤重長の居城高崎城まで中長に従っ  
たのは、花畑番頭の矢部、永井、椿井  
等でしたが、この花畑番とは、どのよ  
うな職でしたか。

十一 浄土宗の大信寺には、東国三十  
三ヶ国の秤座を預かり、武田氏の血を  
引く人の墓がありますが、何家ですか。  
また、西国二十三ヶ国の秤座を預か  
たのは、何家ですか。

《解答》

- 一 厥字(平出、擡頭)
- 二 お江(浅井長政女) 九月十五日
- 三 三緑山増上寺
- 四 崇源院七回忌法要のため
- 五 甲斐国甲府
- 六 将軍家光
- 七 忠長が蟄居中の身であること
- 八 柳沢吉保
- 九 関孝和
- 十 小姓組番のこと
- 十一 守随家 神家

案内板



本館の黄三椏  
(和紙・紙幣等の原料)

◎7・1『公文書等の管理に関する法律』  
成立(平成21年法律第66号)  
◎『群馬県行政文書件名目録』第20集  
(明治期会計・戸籍・通信・運輸・建築  
編)の発行

本目録は「群馬県行政文書簿冊目録第  
1集」(明治期行政文書編)の分類項目  
中「会計」「戸籍」「通信・運輸」「建築」  
に類別されている簿冊一九三冊より二〇  
七七件を収録した閲覧用の文書件名目録  
です。それぞれ細項目を設定し、検索の  
便を図っています。

◎『群馬県立文書館収蔵文書目録』第27  
集の発行

本目録は、『群馬県立文書館収蔵文書  
目録』第27集・吾妻地区諸家文書(と)と  
して、吾妻町原町の増田公平家文書(現  
東吾妻町原町)、同町三島の高橋忠克家  
文書(同三島)、長野原町長野原の長野  
原区有文書、同町大津・市村平八郎家文  
書、同町羽根尾の羽根尾区有文書と唐沢  
市太郎家文書の計6件の史料を収録して

います。なお、同地区の「収蔵文書目録」  
としては、第6集、第7集、第16集があ  
ります。

◎『ぐんま史料研究』  
本誌は、諸般の事情により、第26号を  
以て暫く休刊とします。

◎郷土資料の販売

『群馬県史(全37巻)』、『群馬県史研究』  
『ぐんま史料研究』、『群馬県史収蔵複製資  
料目録』、『群馬県行政文書簿冊目録』、  
『群馬県行政文書件名目録』、研究紀要  
『双文』、『普及版 授業で使えるぐんま  
の資料』、『元禄上野国絵図パズルキット』  
などの郷土資料は、文書館の外、以下で  
販売しています。県立歴史博物館・ミュー  
ジウムショップ・煥乎堂・紀伊国屋書店  
前橋店・群馬大学生協・前橋物産館広瀬  
川・ナカムラ。詳細は文書館ホームペ  
ジを参照してください。

報告板



本館の紅三椏  
(学名 Edgeworthia  
Chrysantha)

【行政文書の受任・引継収集】  
(於県庁)  
6・29、7・8

【古文書の収集・整理】年間(随時)  
【古文書入門講座】  
6・6、7・4(5回連続)

【長期古文書講座】

8・1、11・14(12回連続)

11・21 公開講座「修験道について」

12・5 公開講座「山本菅助について」

【夏休み!文書館子ども探検隊】

7・31、8・14(3回実施)

【レファレンス相談】

毎月第2・第4水曜日(午後)

【文書調査員会議】

5・20 開催

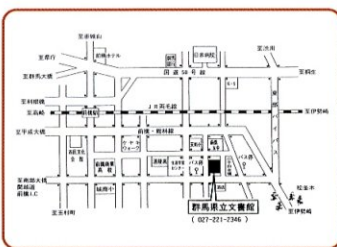
【文書館運営協議会】

7・22、2・16 開催

【群馬県市町村公文書等  
保存活用連絡協議会】

5・22 総会 10・27、2・23 研修会

案内図



発 行／群馬県立文書館  
http://www.archives.pref.gunma.jp/  
〒371-0001 前橋市文京町三二七上六  
印刷／松本印刷工業株式会社  
題 字／岡庭征人書